ひらりんちゃん通信（園長室だより）④

令和７年10月22日
文京区立千駄木幼稚園
園長　篠澤　恵理

運動会を終えて

運動会後には、各学年のリズム表現を一緒に体験する時間をつくりました。これまでの取り組みの中で、子どもたちは、違う学年の様子をよく見ていたようで、踊り方を覚えている子もいました。また、「踊らない」と言って見学していた子も、年長組にキラキラのポンポンを貸してもらうときには、思わず立ち上がり、すぐに手に持って参加していました。「やってみたい」と心が動くと、体も動くのですね。ちょっとしたきっかけやタイミングで、頑なな気持ちがほぐれることがあるので、自分で決めて自分から動くことを待つことの大切さを改めて思う場面でした。

園庭では、年長組が始めたリレーに年少組や年中組も次々と加わる姿がありました。相手の走力に応じて加減して走ったり、追いついてもらうまで待ったりするなど、それぞれの楽しみ方がありました。何度も繰り返し取り組む度に、走り方が格好良くなっていく様子が分かりました。「やってみたい」「やってみたら楽しい」という積み重ねが、次の意欲につながっていることを嬉しく思います。

運動会の感想をいただきまして、ありがとうございました。いくつかご紹介させていただきます。

・子どもの小さな成長一つ一つが、親にとっては何よりも大切でかけがえのないものだと改めて感じました。
・小さかった頃を思い出しながら、成長を感じていました。
・「みんなでつくる運動会」という名の通り、親も競技に参加させてもらい、見ているだけでなく、子どもたちと同じ気持ちになって参加できたことが、とても嬉しかったです。

保護者の皆様が、お子さんの成長過程を思い浮かべながら、温かなまなざしで応援してくださっていたことが伝わり、教職員にとりましても、大きな喜びとなりました。

また、観覧席や会場内の警備強化についてなど、貴重なご意見もいただきまして、ありがとうございました。教職員からの反省点も含め、改善できることを検討して、次年度に生かしてまいります。

運動会の思い出

我が子が、幼い頃に通っていた園の運動会での思い出です。当時の先生方がせっかく用意してくださった衣装なのに、一人だけ着ないで、先生に手を引かれながらの登場でした。棒立ちで終わるのかと見ていたら、最後だけポーズをとったつもりで、ほんの少し手を動かしていました。一見何もしていないようでいて、本人なりに参加していたのでした。思わず笑ってしまいましたが、そんなささやかなことも、「動いた！」と喜んだことを覚えています。

子どもが大きくなるにつれ、過度に期待が膨らむと、「もっとできるはず」とか、「こうすべき」と思いがちですが、子どもたちが見せる姿は、「今できる精一杯の姿」「我が子なりの全力」です。子どもと共に過ごす今を愛おしく感じる毎日でありますように。